

Topics

- ▶ 10月11・12日に北京にて、低炭素都市・建築研究の第一人者である清華大学と低炭素都市・建築の実現に関する第1回ワークショップを開催します。初日は研究セッション、2日目は中国建築設計研究院主催で広く関係者に出席頂くオープンセッション形式で行なわれます。
- ▶ 10月20日に開催する第46回NSRI都市・環境フォーラムは、若生謙二氏（大阪芸術大学環境デザイン学科長・教授）によるご講演「動物園革命—動物園から緑のまちづくりへ」です。詳細は、<http://www.nikken-ri.com/forum/>まで。

環境ビジョンの役割と可能性 ～「中之島 環境ビジョン」を例に～

深刻化する地球温暖化問題に対応するためには、①建物の環境性能向上などの単体対策のみならず、建物の更新を面的に推進し、②併せてエネルギー利用の効率化や再生可能エネルギーの活用を図る、③公共交通利用などの交通対策を組み合わせる、④吸収源となる緑化推進などの対策を、都市全体に広げて総合的に推進する必要があります。

内閣官房は、環境モデル都市に続き、本年には「総合特別区域」、「環境未来都市」の公募を開始しました。年内には選定される見込みで、国内外の先進モデルとなる成功事例を創出する国家戦略プロジェクトが動き出そうとしています¹⁾。

本稿では、このような国の動向も視野に入れつつ、水都大阪のシンボルアイランド・中之島において、中之島地区及び周辺地域の産・学・官・民で構成する「中之島eco2連絡協議会」により策定された「中之島 環境ビジョン」（NSRIが技術協力）を例に、今後の低炭素都市づくりに向けた環境ビジョンの役割と可能性について述べます。

◆環境ビジョンの役割と可能性

「中之島 環境ビジョン」は、環境面で中之島が向かうべき方向性を明確にし、中之島の関係者が継続的に環境に関する新技術の展開や環境まちづくりに着実に取り組んでいくための「成長を続けるビジョン」として位置付けられています。ステークホルダーが全体像を俯瞰でき、情報共有しながら取組みを実践していくことは「環境ビジョン」をつくる大きな意義の一つです。

①「個」から「全体」へのアプローチ

「中之島 環境ビジョン」は、個々の「建物」単位での取組みを出発点とし、建物単体の環境配慮にとどまらず、街区そして中之島全体というレベルに広げていくことを基本理念としています。公共事業で「総論賛成、各論反対」のジレンマがしばしば指摘されるように、環境対策においても同様のことが危惧されます。「全体」からトップダウンで進める視点は重要ですが、「個」の主体性をベースとして積上げていくボトムアップ型のアプローチを示すことにより、実現化へ大きく寄与できるものと考えます。

②意識改革と実践の喚起

環境に配慮した社会システムづくりやライフスタイルの転換を促すことにより、一人ひとりが、環境意識を高めていくことが重要です。環境ビジョンでは、都市空間の資産価値の向上や生活者のQOLの向上など、環境まちづくりによってもたらされる効果を明示することにより、個々人の意識改革と実践を喚起していく効果が期待できます。

③マネジメント体制の構築

低炭素で持続可能な都市を実現するためには、目指すべきビジョンを明確に示すとともに、中長期にわたり各種プロジェクトを着実にマネジメントしていくことが重要です。環境ビジョンの中で、プラットフォームとなる組織や情報収集・発信の仕組みを具体的に示すことにより、効果的なマネジメント体制の構築に寄与することができます。

最後に、中之島地区の取組みが成功モデルとなり、大阪他の各地区への水平展開が期待されます。こちらもやはり個から全体の視点で、「地区の変化」が「都市構造全体の改変」へとつながっていくことを願ってやみません。

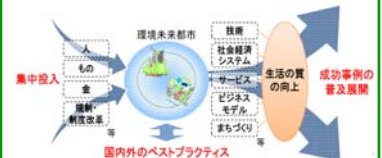
今月の豆知識

●豆1)「環境未来都市」構想

内閣官房は、産業の国際競争力の強化及び地域の活性化を目指す「総合特別区域」の指定申請に続き、「環境未来都市」構想を公募した。

「環境未来都市」構想の基本コンセプトは、環境・超高齢化対応等に向けた、人間中心の新たな価値を創造する都市をつくることであり、世界に類のない成功事例を国内外に展開すること（需要拡大、雇用創出、国際的課題解決力の強化）を目的としている。

既に指定済みの「環境モデル都市」とは、低炭素に加え資源や水の循環等も含めた環境分野全体を視野に入れ、かつ、超高齢化対応としての健康や医療等の分野なども対象としている点が異なる。また、環境未来都市に対しては予算等の集中支援が行われることになっている。



出典「内閣官房ホームページ：「環境未来都市」構想の概要」

筆者の紹介

鈴木 義康
すずきよしやす
主任研究員



主要研究分野は、都市・環境・交通分野のコンサルティング。関西を拠点に、持続可能な未来都市の実現に向けた政策立案、ビジョン策定、各種調査・計画業務に従事。

趣味は釣りとういん。昨年末に愛車を手放し、低炭素型ライフスタイルを実践中。



編集後記 電力使用制限令は解除されましたが、今夏に実践した節電対策やライフスタイルの変更は継続して実施し、低炭素な生活が定着すれば良いと思います（みどりん）。定期配信希望は、webmaster_ri@nikken.co.jpへ

